

平成28年度 学校だより



平成28年12月19日(月)  
御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

No.10

E-mail:

onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp

## あなたも魔法使いに

ある情報誌を読んでいるときに出合った文章の中で、目を引いたのは「魔法の言葉」です。そんな言葉があるのか、あるならその言葉を知りたいなと興味を引いたのです。その言葉は芸能界で活躍しながら大学院で学び、大学でも教えていらっしゃる方(菊池桃子さん)で、子どもの頃、おばあちゃんが掛け続けてくれたのが「魔法の言葉」です。その言葉は「〇〇はよくなってきたね」「〇〇、前よりよくなってきた」というものです。なぜこの言葉が「魔法の言葉」なのでしょう。それは、誰かと比べるのではなく、その子自身が成長していることを褒め、これから先もっと伸びるよ、という温かみ感じるからです。ある時、テストで悪い点を取ってしまい、さすがに今回は言われないうちだろーうと思っていると、それでも「良くなってきたね」と言われた。驚いて聞き返すと「気づいていないかい。〇〇はテストに慣れて緊張しなくなったんだよ」「だから、緊張しなくなった自分をまず褒めようね」という魔法の言葉が返ってきました。こんな人が身近にいたら、子どもはきっと魔法をかけられて頑張ってしまうのではないのでしょうか。

子どもはいつも親の姿を見ています。ああしなさい、こうしなさいと言う親の躰の言葉よりも、親のありのままの姿のほうをよく覚えています。親は子どもにとって人生で最初に出会う、最も影響力のある「人の手本」なのです。子どもは、毎日の生活の中での親の姿を見て、よいことも悪いこともすべて吸収してしまいます。親がどんなことに喜び、どんなことで怒るか、どんなことで哀しむか、どんなことで楽しくなるのか、どんな人と接しているか。親のその姿を手本とし、子どもは生涯にわたって影響を受けることになるのです。だから、子どもの身近にいる私たちが「魔法の言葉」を遣う魔法使いになればいいんです。

### 「魔法の言葉」のヒント

- 〇〇ならきっとできるよ。
- 〇〇いつもお手伝いありがとう。
- 〇〇頑張ったね。私も嬉しいよ。
- 〇〇優しいところが大好きだよ。
- 〇〇縄跳び上手になったね。
- 〇〇いつも応援しているよ。
- 〇〇このお仕事一緒にやろうよ。
- 〇〇気持ちがわからなくてごめんね。
- 〇〇もみんなとてもかわいい子どもだよ。



年末年始は、魔法の言葉を遣うチャンスがいっぱいです。あなたも、ぜひ魔法使いになってみましょう。

(文責：竹原一人)